



信金中央金庫

SCB SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所

ニュース&トピックス No. 2022-37

(2022. 7. 1)

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7 TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048
URL <https://www.scbri.jp> e-mail : s1000790@FaceToFace.ne.jp

信用金庫の個人ローン残高の動向 (2021 年度末)

とね かずゆき
刀禰 和之

ポイント

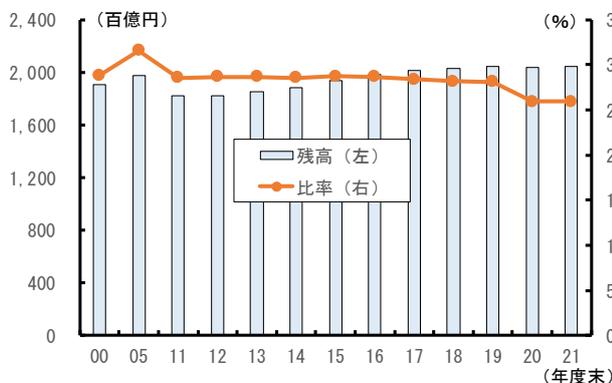
- 2021 年度末の信用金庫の個人ローン残高は、前期比 0.4%、980 億円増加の 20 兆 4,521 億円となり、コロナ禍でマイナスとなった前期 (0.4%減) から再び増加に転じた。
- 2011 年度末比の地区別個人ローン残高は、東海、関東、九州北部が 2 割を超える伸びを示す一方で、北陸と東京は 10% 台の減少となった。
- 信用金庫別の個人ローン比率を 2011 年度末と 2021 年度末で比較すると、①比率上昇が 68 金庫に対し、②比率低下は 186 金庫に達した。
- 2021 年度末の信用金庫別の個人ローン比率は、①20%未満が 59 金庫、②20%~30%未満が 110 金庫、③30%~40%未満が 75 金庫、④40%以上は 10 金庫となった。

1. 全国の場合

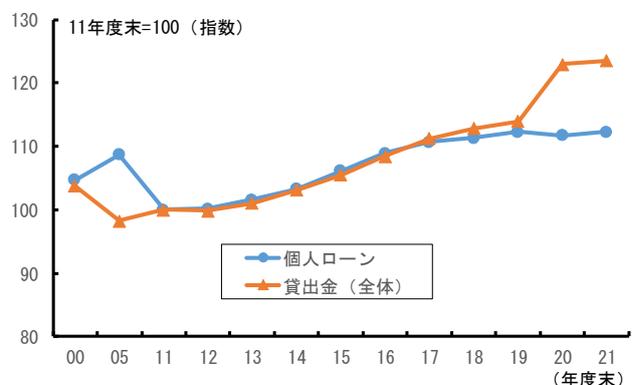
2021 年度末の信用金庫の個人ローン残高は、前期比 0.4%、980 億円増加の 20 兆 4,521 億円となり、コロナ禍による活動自粛などで減少した前期 (0.4%減) から再び増加に転じた (図表 1)。つれて個人ローン比率も前期並みの 25.9%となった。なお、信用金庫の個人ローン残高のうち 85% が住宅ローン残高であり (2021 年度末)、残高変化の大宗は住宅ローンの推進スタンスによる部分が大きいと考えられる。

次に 2011 年度末を起点に 2021 年度末の個人ローン残高と貸出金残高の変化状況を見ると、2019 年度末までは同水準で推移していた。ただしコロナ禍の直近 2 年間は、事業性貸出が大きく伸びたことから、伸び率の開きが拡大している (図表 2)。

(図表 1) 個人ローン残高の推移



(図表 2) 個人ローン残高と貸出金残高の変化比較



- (備考) 1. 本稿では、他業態との合併等を考慮しない。
2. 本稿では、切捨ての関係で合計と内訳が一致しない場合がある。
3. 図表 1 から 5 まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 地区別の状況

2021年度末の地区別の個人ローン残高は、東海、関東、九州北部が2011年度末比で2割超の増加となるなど6地区で増加した（図表3）。また2021年度末の地区別の個人ローン比率をみると、東海が33.2%となり、関東の30.6%、九州北部の30.2%が続く。

（図表3）地区別の個人ローン残高

（単位：百億円、%）

地区	00年度末	05年度末	11年度末	20年度末	21年度末	11年度末対比		比率	1金庫あたり 残高
						増減額	増減率		
北海道	68.2	81.7	69.5	66.0	65.9	△ 3.5	△ 5.1	19.0	3.2
東北	76.0	79.2	62.1	61.9	61.6	△ 0.4	△ 0.7	23.2	2.2
東京	391.2	402.0	324.7	298.9	287.5	△37.1	△11.4	18.5	12.5
関東	384.8	393.7	358.5	431.3	438.2	79.6	22.2	30.6	8.9
北陸	56.3	56.9	47.8	43.6	42.2	△ 5.6	△11.7	24.2	2.8
東海	323.3	369.6	412.6	520.9	532.4	119.7	29.0	33.2	15.6
近畿	382.8	365.1	343.1	393.2	394.9	51.8	15.1	22.9	13.6
中国	92.3	94.7	84.0	92.2	93.6	9.6	11.4	27.0	4.6
四国	43.0	45.5	37.1	33.3	33.7	△ 3.4	△ 9.1	28.5	3.3
九州北部	37.6	38.3	35.7	42.5	43.2	7.4	20.8	30.2	3.3
南九州	47.9	48.3	42.8	46.2	46.4	3.5	8.3	27.6	3.5
全国	1,907.4	1,979.2	1,821.2	2,035.4	2,045.2	223.9	12.2	25.9	8.0

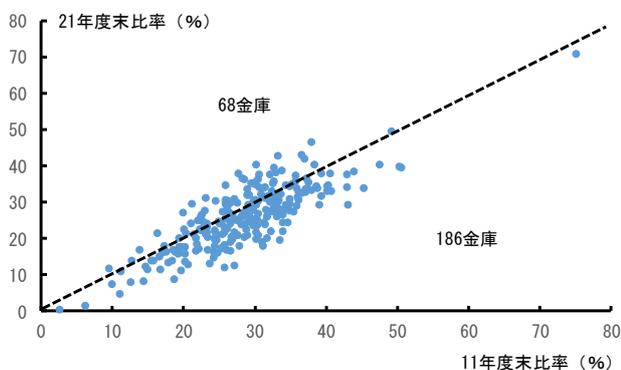
（備考）沖縄県は全国を含む。

3. 信用金庫別の状況

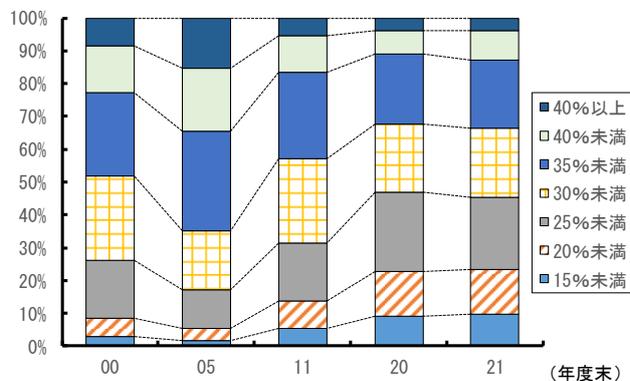
信用金庫別の個人ローン比率を2011年度末と2021年度末で比較すると、①比率上昇が68金庫（構成比26.7%）、②比率低下は186金庫（同73.2%）となった（図表4）。残高ベースでは増加が151金庫（同59.4%）、減少は103金庫（同40.5%）となる。

次に2021年度末の信用金庫別の個人ローン比率は、①20%未満が59金庫（同23.2%）、②20%～30%未満が110金庫（同43.3%）、③30%～40%未満が75金庫（同29.5%）、④40%以上は10金庫（同3.9%）となった（図表5）。2011年度末の構成比と比べると、20%未満の割合が13.6%（37金庫）から23.2%に上昇し、40%以上は5.5%（15金庫）から3.9%にやや低下している。

（図表4）個人ローン比率の変化
（11・21年度末）



（図表5）信用金庫別の個人ローン比率



以上